

円の中には、壁画制作費のほか、磁器板、磁器板こん包運送費、作品の下に敷設した鉄製ブロック費、消費税が含まれております。壁画の設置業務については、株式会社ツチクラ住建に請け負わせ、126万3,600円を支出しております。以上でございます。

○議長（清水満） 日程第1、一般質問に入ります。

質問の順序につきましては、お手元に配布の一覧表のとおりであります。

一問一答方式による活発なわかりやすい質問、答弁を期待しております。

なお、質問事項はあらかじめ通告されておりますので、簡潔に発言されるようご協力願います。

◇ 樋 口 功

○議長（清水満） 発言順位6番、議席番号11番、樋口功議員を指名します。樋口議員。

〔11番 樋口功 登壇〕

○11番（樋口功） おはようございます。議席番号11番、樋口功です。通告に従いまして順次質問しますが、一部質問順序が前後しますことをお許してください。

さて、自治の基本は人であります。人がいなければ自治は必要なく、逆に人がいれば自治が必要であり、その自治力を十分発揮することにより自治活動が活発となり、そこに住んでいる住民が豊かな生活を送ることができます。しかしながら、自治活動を十分行うには適度な規模の人口が必要で、その構成も老若男女、それぞれ偏らないことが理想でしょう。

飯綱町の人口は、平成7年をピークに減少し、現在の人口は30年1月で1万1,327人となっております。この間2,000人、1,965人が減少しております。このまま人口減少が進みますと、近い将来1万人の大台を割り込むことが予想されまして、社会的な現象であります少子化の時代にあつて、町は平成28年に第1次総合計画を改訂しまして、第2次総合計画を策定しました。その際、住民満足度調査を行うなどの上で検討しまして、飯綱町は他の自治体と同じではなく、町の特徴を生かし、飯綱町らしい町づくりを進めていくことが必要であるとしまして、

「日本一のりんごの町へ」、「日本一女性が住みたくなる町へ」に焦点を当てまして、これを重点的に挑戦する分野とするなどで、計画策定時から 10 年後を見据え、平成 38 年の将来人口としまして 1 万人を目指すことにしました。

統計的なお話になりますけれども、飯綱町におきましては、社会保障人口問題研究所による 2040 年の飯綱町の姿、いわゆる 65 歳以上の人口割合が 46.6 パーセントと推計されております。いわゆる限界集落予備軍に当たります。ちなみに隣の信濃町は 49.1 パーセントとなる予想でございます。

それから 2014 年 5 月に発表されました日本創成会議人口減少問題検討部会の推計によりますと、いわゆる消滅可能性自治体として 896 自治体が紹介されました。これは毎日新聞によります。これは 2010 年からの 30 年間、いわゆる 2040 年の時の推測ですけれども、町の 20 代から 39 歳までの女性の減少率でございますけれども、飯綱町は 55.8 パーセント、隣の信濃町は 70 パーセント、ちなみに山ノ内町は 71.3 パーセントということでございまして、非常に大変な時代を迎えてくるということで、先ほど申しました町長が日本一女性が住みたくなる町へ焦点を当てるということは、こういうことからしましても適切な対応ではないかと思っております。

言うまでもなく、人口は出生数と死亡数の差による、いわゆる自然増減とそれから人口の移動の差、すなわち人口流入数とそれから流出数の差が、社会的な増減になります。人口減少の原因は出生率の低下、あるいは町外への転出などですが、言い方はよろしくはないかもしれませんが、食い止めるのは一朝一夕に解決できることではありません。

現在、町は自然、仕事の創出、それから安全面、安心面、それから地域活性化、こういうことで様々な施策を計画し、実施しております。これらの施策が達成できれば先ほどの町民の住民満足度も更に上がりまして、人口減少についても抑制されるきっかけになるはずです。

そこで町長に質問します。町は総合計画で都市との交流や移住促進に繋げるための施策を計画、実施しておりますけれども、その中で移住者を増やすことの重要性についてどのようにお考えでございますか。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） お答えを申し上げます。都市との交流、都市からの移住者、都市の中には長野市が入っても一向に差し支えないわけでございますけれども、議員がおっしゃるとおり、やはり人がいるから自治が必要であって、人がいなくなればどんどん需要というものが減っていくという、これはおっしゃるとおりでございます。ただ、移住者を増やしたいという思いは、いわゆる亡くなる方と生まれてくる方の自然増減というものは、どうしても何年かは減というかたちにならざるを得ない。生まれてくる人の方が断然に少ない。こういう中で、何とか人口の大幅な減少を抑えるには、外からのお客様に来ていただくしか方法はない訳で、その意味で都市からの移住と申し上げている訳です。

時々、議長さんといろいろな会議に同席することがあって、先般も清水議長さんのあいさつの中で、人口1人当たりの地方交付税が30万円くらいになるというお話をされておりました。1万1,000円ちょっとですから、31.2億円の地方交付税が入ってくる訳です。割り算すると確かに赤ちゃんから、恐縮ですが寝たきりのお年寄りまで平均で30万円近い交付税が1年間に入ってくる訳です。このお金が飯綱町にとって非常に大きな運営をしていくための自主財源になっているということは、ご承知おきをいただいていると思います。このお金がどんどん減っていくということが前提に人口減というところに見え隠れしていますから、昨日までは平出地区の全部を除雪したけれども、今年からは半分にさせてもらいたい、原因はお金が無いからです。こういう事態は招きたくないということで都市からの何とか人口増を図っていきたいということで、積極的に呼び掛けております。

もう1つ、飯綱町の魅力というものがだいぶ日本人の価値観の変化によって、都市、近郊に住んでおられる比較的若い人たちも中心に含めた中で、こういう田舎、自然の中で子どもたちを育てるということに非常に価値観を持っていただく人が増えてきたという、そういう時代の背景も踏まえた中で、何とか良さを理解していただける、そういう皆さんに移住を促していきたいということで働き掛けております。

明治大学の小田切徳美先生の講演も去年皆さんお聞きをいただいておりますけれども、一概に即転入という、住所まで移してこられなくても、いわゆる関係人口というようなことで、1年目に初めて寄附を飯綱町にしたけれども、次の年は2回くらい飯綱町を訪ねてみるか、その次の年は1か月くらい飯綱町で住んでみる、ずっと住んでみるようにしたい、こういうようなかたちでの関係人口を増やして、人口の転入、都市からの移住の促進を図っていきたいと思っています。

ただ、それも2万人にも3万人にも増やしていきたいというつもりではございません。いろいろな自治の形態を見ますと、理想は1万4、5,000人程度で人口が推移をしていけば、いろいろな人材もいらっしゃるし、子どももいるし、学校から保育園から諸々の運営がかなり見通しよくやっていけるのではないかと考えています。

○議長（清水満） 樋口議員。

○11番（樋口功） 社会的な現象であります少子化の時代にあつては、いわゆる自然増はなかなか見込めない。そういう中で社会増に期待することが重要だという町長のお話はよく分かりました。

移住者増やすということ、これも本当に大切だと思うわけですが、転入者の対応はいろいろありまして、いわゆるUターン、これを移住者と言っても良いかどうか、その他にはIターン、あるいはお嫁さんに来る、お婿さんに来る、いろいろな移住の形があると思いますけれども、なかなか移住という言葉の意味合いが難しいことは私も重々理解しておるわけですが、町で移住に関しての状況、あるいは移住相談、このようなことで何かでつかんでいる数字的なものがあるかどうかお聞きしたいと思います。

○議長（清水満） 徳永企画課長。

〔企画課長 徳永裕二 登壇〕

○企画課長（徳永裕二） それではお答えしたいと思います。樋口議員さんから移住をどう捉えるか、移住というものをどう定義するかという点もある訳ですが、町内への転入世帯の状況を見ますと、元々飯綱町出身と思われる転入者は除かせていただき、かつ定住を前提に転入され

たと思われる世帯を集計させていただいた資料がございますので、ご説明させていただきたい
と思います。

平成 28 年が 32 世帯、うち県外の方が 10 世帯、それから平成 29 年では 29 世帯、うち県外の方
が 9 世帯ということでございまして、近年、年 30 世帯前後の移住世帯があるという状況でござ
います。

○議長（清水満） 樋口議員。

○11 番（樋口功） 30 世帯というのは、私はそんなに少なくない数だと思っております。

次に質問させていただきますけれども、移住希望者が考える移住の条件、これはどのように
お考えでございますか。

○議長（清水満） 徳永企画課長。

〔企画課長 徳永裕二 登壇〕

○企画課長（徳永裕二） それぞれ条件というのは異なると思われる訳でございますけれども、
例えば、自然環境の良さや田舎での暮らしを目指して移住を希望する人が増加しているという、
そういう前提に立てばということですが、その際の条件となるのはやはり仕事と住む場
所があるかどうかということが最大の移住の条件となると考えております。これにつきまして
は、都市部で行っております移住相談会などでも必ず聞かれるものであります。

また、若い方の世帯となると子育て環境ですとか、子育て支援策の充実、また高齢の世帯で
あれば医療や福祉の充実といったことが条件として挙げられることが多いかと思っております。

国で昨年 11 月から 12 月にアンケート調査を実施しておりまして、その内容をご紹介させて
いただきたいと思いますけれども、移住の理由を U・I・J ターン別に見ると、故郷とは別の
地域に移住する I ターン者の回答割合で相対的に高かったのは、自分の資格や知識、スキルを
生かした仕事や活動がしたかったから、それからアウトドア、スポーツなど趣味を楽しむ暮ら
しがしたかったから、こういうものが多くあったというアンケートが出ているところでござ
います。

○議長（清水満） 樋口議員。

○11 番（樋口功） 多くの方に移住してもらうために大切なことは、移住者の目線に立って物事を考えることだと思います。今、ご紹介がありましたとおり、移住を検討している人の考える移住条件、関心事ですけれども、いろいろあると思いますけれども、総務省が発表しました 27 年度移住相談に関する調査結果での窓口の関心事は、やはりおっしゃったとおり住居、そして仕事、それから自然環境などの地理的環境、アクセスも含むわけでございますけれども、それから移住者への支援制度についても関心があるということでございます。

そこで質問させていただきます。条件、関心事の 1 つであります住居関係でございますが、町が取り組んでいる施策の 1 つに町内の中古住宅の購入を予定している住居希望者を支援するとしておりますけれども、簡単で結構ですが、どのような体制でなさっていますか。その状況について質問します。

○議長（清水満） 徳永企画課長。

〔企画課長 徳永裕二 登壇〕

○企画課長（徳永裕二） それではお答えしたいと思います。平成 28 年から飯綱町移住定住促進中古住宅等購入費補助金を設置しまして、移住希望者の中古住宅購入への補助による支援体制を整えているところでございます。

平成 28 年度の実績でございますけれども、平成 28 年度につきましては 4 件、また平成 29 年度の今現在でございますが、今年は少なく 1 件というような状況で中古住宅の購入補助をご活用いただいているところでございます。

○議長（清水満） 樋口議員。

○11 番（樋口功） 町は、「インターネットなどで簡単に空き家情報検索できます。」と、そういう体制を整備して移住者と空き家所有者とのマッチングを促進すると言っておられますが、その内容について簡単に状況を説明していただければと思います。

○議長（清水満） 徳永企画課長。

〔企画課長 徳永裕二 登壇〕

○企画課長（徳永裕二） 現在、町のホームページを更新するという作業を今年度実施している

ところでございますけれども、この機会に併せて、町では新たなウェブサイトというものを構築し、そのサイト内で空き家情報の掲載やマッチング支援等を実施していきたいと考えております。現在、新しいサイトの構築を進めているところで、その運用につきましては新年度から予定しております。

ただ、空き家の情報でございますが、正直、情報提供できる材料が少ないというのが現状でございます。今までも進めてきている訳でございますけれども、空き家情報の整備を今年度も実施しており、こうした情報整備、また貸手の掘り起こし、こういうことも含めたソフト面での体制整備、こういったことも早急に進めてまいりたいと考えているところでございます。

また、こうした空き家の情報ですとか、こういった領域につきましては、民間等に今後委託していくことも併せて検討していけたらと思っているところでございます。

○議長（清水満） 樋口議員。

○11 番（樋口功） これから質問することは、直接に移住者への投げ掛けではありませんけれども、移住希望者に紹介できる住まいを確保するために、空き家情報の支援をすることとしていることですので、この内容についても簡単に結構ですので説明していただければと思います。

○議長（清水満） 徳永企画課長。

〔企画課長 徳永裕二 登壇〕

○企画課長（徳永裕二） こちらも先ほどと同じ平成 28 年からということになりますけれども、町では飯綱町空き住宅活用改修費補助金ということで設置をさせていただいております。町内の空き住宅を改修し、賃貸借する業者さんに対して、改修に要した経費の一部を補助するという支援制度を設けております。

ただ、なかなかうまく進んでいないという状況がございまして、せっかく設けた制度でございますが、ご利用いただいた実績は無いという状況でございます。

○議長（清水満） 樋口議員。

○11 番（樋口功） これから質問することで大切なことだと思っておりますけれども、移住した者に対しまして、移住相談員の配置ですとか、それから生活サポート体制を構築していくというふ

うにしているようでございますけれども、これも簡単で結構ですが、どんな状況かお話しいただければと思います。

○議長（清水満） 徳永企画課長。

〔企画課長 徳永裕二 登壇〕

○企画課長（徳永裕二） 移住相談ですとか、ライフスタイルサポートまでを含めたトータル移住支援体制の仕組の構築ということにつきましては、現在、地方創生交付金を活用して進めているところでございまして、まだ十分な体制というところまでは至っていないところでございます。

構想としましては、地域おこし協力隊を移住コーディネーターということで実務面などの中心に据えまして、既に移住されている皆さんが登録制等によってライフサポートや気軽な相談相手として機能する仕組、既に移住されている方にもそういった場面に出てきていただいて、サポートしていただく、そんな仕組を考えているところでございます。この点も町が体制等を整えた上で、先ほどと同じようなこととなりますけれども、最終的にはこういったことについても民間へ委託していけたらと今考えているところでございます。

また、こうした移住支援機能の拠点としましては、今、栄町に通称ZQと書いて「ずく」という言い方をおりますけれども、これを予定し進めているところでございますけれども、将来的には三水第二小学校や牟礼西小学校、そこにもそうした機能を持たせて、その仕組づくりと運営というものを進めてまいりたいと思っているところでございます。

○議長（清水満） 樋口議員。

○11番（樋口功） 今まで関心事の大きな理由である住居関係について質問しましたが、町が行っております施策として、住居関係以外で何か特徴的なものがあったら教えていただきたいと思えます。

○議長（清水満） 徳永企画課長。

〔企画課長 徳永裕二 登壇〕

○企画課長（徳永裕二） お答えさせていただきたいと思えます。今現在、町では野村上地区に

なりますけれども、移住体験用住宅を整備いたしまして、飯綱町への移住体験を提供させていただいているところでございます。

また、長野地域の連携中枢事業におきましては、都市部における移住相談会ですとか、都市部から移住体験ツアーに来ていただく、このようなことによりまして、移住者増を目指した取組を展開しているところでございます。

また、飯綱町総合戦略の各種事業や子育て支援の各施策、地方創生推進交付金を活用した各事業、これらにつきましても大きな目的の1つでございまして、定住者の増加を図ってまいりたいという施策に取り組んでいるところでございます。

また、地域おこし協力隊、今現在3名に来ていただいておりますけれども、都市から地方への人の流れを作ることを目指した制度でございまして、地域協力活動を行いながら、これらの方についても、定住、定着を支援するというものでありますし、先ほど町長から関係人口という話が出ましたけれども、関係人口を増やすことも非常に重要なことだと思っております、現在、産業観光課が行っております、りんご学校なども関係人口を増やす重要な役割を果たしていると考えているところでございます。

○議長（清水満） 樋口議員。

○11番（樋口功） いろいろ工夫しながら様々な施策を行っているということはよく理解できました。更なる施策の実施に大いに期待するところでございます。

次の山村留学につきましては、最後の方にさせていただきたいと思えます。

先ほど来、町長から移住者を増やすことの重要性については伺っている訳でございまして。移住者を増やすためには、積極的な情報提供を行う必要があるということでもあります。

そこで質問します。どのような方法で、どのような情報提供をしているかということですが、インターネットのことにつきましては、次の質問で聞きたいと思えますので、インターネット以外で先ほどの移住相談会ですとか、そういうところに出掛けて行って移住を勧奨しているというようなお話、そのようなことで結構ですが、何かあれば教えていただきたいと思います。

○議長（清水満） 徳永企画課長。

〔企画課長 徳永裕二 登壇〕

○企画課長（徳永裕二） お答えしたいと思います。先ほど申し上げた移住相談会、そういったところではもちろん情報の提供をさせていただいておりますし、過去には移住されてきた方を紹介、掲載したような移住パンフレット等も作成をしてきたところがございますけれども、議員からホームページの関係は後でというお話ございましたけれど、主にはホームページ等によりまして移住関係の情報ですとか、支援制度の情報、また空き家情報といったものを紹介させていただいている状況でございます。

○議長（清水満） 樋口議員。

○11番（樋口功） 先ほどからインターネットにつきましては、ホームページの更新を今これから進めていくというお話ですので、情報の提供における有効な手段としてインターネットの利用ということでございました。

繰り返しになりますけれども、提供する情報というのは、移住希望者の目線に立って、移住希望者が欲するであろう情報、すなわち飯綱町に移住して生活ができるのだろうか、その思いを解決してあげられる内容をしっかり丁寧に説明、提供するということが大切と考えます。

このような観点で町のホームページを開いてみますと、掲載方法につきまして、内容について今の状況を更に工夫する必要があるのではないかと感じております。この点少し痛いかもしれませんが、今後の更新の中に含んでいただければということでお聞き願いたいと思います。

現在、ホームページでやっておりますように、トップページとは別に移住希望者用の情報について特集を組みまして、そのサイトメニューで紹介するというのが移住者にとっては端的に見やすく、そして情報をまとめて得ることができるということで、今のやり方は継続していただきたいと思う訳ですが、移住希望者が求めているであろう掲載すべき情報、これはすなわち先ほど関心事でもご紹介しましたように、自然などの地理的環境、寒いとか、暑いとか、晴れが多いとか、雨が多いとか、雪が降る、あるいは交通アクセス、これらについての情報。それから、土地を含めた住居の情報、仕事の情報、教育、福祉、病院などの日常の生活に必要な

情報について、まずはこれらの項目別にそれぞれ伝える内容、要旨を端的に分かりやすく、そして優しく掲載するのが良いと思います。

移住希望者に飯綱町は自然環境が良くて、長野市の隣町で、交通の便も良い、子育てにも優しい施策がいっぱいあって、病院もいくつかあり、福祉の環境も良い、いざという時に安心、そういうイメージをしっかりと伝えて欲しいと思います。

そして、更には細かい情報、例えば子育て支援の応援祝い金、あるいは医療費助成を受ける手続などの情報は、各課の情報へリンク、あるいはアクセスしてもらえるようにしたらよいのではないかと思います。少なくとも最初から細かい文章でつづられた今の各課の情報ページにアクセスさせないということが必要だと思います。

移住希望者に対する情報提供のサイトはホームページの中に別サイトとして、今は環境、住居についてという特集を組んでいます。最初のページに入りますと、りんごやももなどの写真の上に信州飯綱町へようこそと大きな画面が出ます。これはとても良いと思います。問題はこれからです。その画面の下に「飯綱町へいらっしゃい」とありまして、飯綱町の紹介、飯綱町の全図、アクセス、農業について、この4つのクリックをする部分があります。そこでそれぞれクリックしますと、その全ての画面には飯綱町の良さが感じられない、硬い文章、興味の湧かない画面の説明ページが流れます。5万分の1の地図を利用した程度の、これは悪い言い方かもしれませんが無味乾燥な飯綱町の全図の地図情報、これも大切かとは思いますが、移住希望者にとってみれば、公共施設ですとか、準公共施設、例えば郵便局ですとか、金融施設、病院、コンビニ、直売所、生活に密着した施設の所在地、こんなものをイラスト的に入れた方が、非常に興味が湧くのではないかと考えております。

もう1つのクリック場所、農業についてというところがある訳ですが、これをクリックすると内容がよく理解できません。農政課への問い合わせをしてくださいと。数戸のりんご栽培農業者の紹介。若干目的がよく分からない。私は分からない。何の説明もないです。何を伝えたいかよく分からない。

同じ画面の左側にあります飯綱町に住もうプロジェクト、これをクリックすると、「ただいま

移住希望者からの問い合わせが多く、空き家情報不足しております。」と表示されます。そもそも飯綱町へようこそから入って、この内容はないのではないかと思う訳です。

同じように空き家情報をクリックします。「空き家情報お寄せください。」移住者に空き家情報聞いているのかと思う訳です。

土地情報というのがあります。これをクリックしますと、土地情報の前に飯綱町の環境について詳しく説明されています。この画面では、これは必要なのでしょうけれども、肝心な土地情報ではなくて、扇平団地の空き地の購入者の募集です。

画面の左下に一般社団法人長野県宅地建物取引業協会の情報でしょうか、「信州住まい探しのポータルサイト」というのがあります。内容は、正しく移住希望者が欲している空き家、空き地情報、これは民間不動産会社の不動産情報ですけれども、これだと思います。他の自治体では、これをうまく活用している訳です。不動産会社の名前を入れないとか、取引の仲介をしませんとか、自治体がそういうことやりません、どうぞそれぞれ自己の責任でやってくださいというようなことで、その情報を町の情報としてしっかり入れている。先ほど不足しているとおっしゃっていましたが、活用によってはこれが生きるのではないかと考えるわけです。

元に戻りまして、トップページに教育委員会の子育て支援係担当の子育て未来室というところがあります。これ非常に良い内容でありまして、子育て支援のこと、応援祝い金、医療費の助成、誕生祝い金、こういうものが子育てに優しい環境を作っているということがよく分かる訳です。この内容は、非常に移住希望者にとっても大切な情報だと思います。飯綱町へようこそそのページにもその概略を是非載せていただきたいと思う訳でございます。

仕事につきましては、町内に紹介できる職場が少ないということもあるでしょう。ほとんど紹介がありません。だけれども、地理的に長野市などへの就職者が多く、通勤にも便利ですと正直に掲載したらいかかでしょう。そうではなくても、例えば飯綱町無料職業紹介所の求人情報があります。これも良い情報ですし、商工業者のための支援制度も良い情報だと思います。好評の飯綱町ワークセンターについても取り込んだらどうでしょうか。

別の角度から見ますと、今、そこに代表監査委員がお持ちになっていらっしゃる、企画課が

これまでに2回発行しました飯綱 100 PROFESSIONAL PEOPLE、素晴らしい情報だと思います。これまでに飯綱町に関わる65人の若者が紹介されておりまして、ざっと数えただけでも、いわゆるUターンをした人が十数人、町内に関わりがなくIターンと呼ばれるかたちで移住した人が十数人、約半分近い人がいらっしゃいます。皆さんがそれぞれ生きがいを持って職業に携わっておりまして、素晴らしい生活をしていらっしゃいます。この内容をホームページに掲載することも仕事面ではなく、移住希望者にとって有効な情報だと考えます。

もう1つ、是非載せて欲しい情報があります。それは、シニアの方々の移住希望をかなえてあげるといことです。長年の会社勤めなどを終えまして、定年後の第二の人生を田舎で暮らそうと考えるシニア世代の方が多きことは、某テレビ放送、例えば人生の楽園などで移住生活の様子が放送されていますので、想像がつくと思います。これらの世代の方々に対する移住情報も是非載せて欲しいと思います。

これまでに多くの方が、飯綱町に移住されていると思います。この方々の飯綱町に移住して良かったという、にこやかな顔と感想を掲載することは、移住希望者に安心感を与えてあげられる内容だと思っております。

総務省が発表しました平成28年度における移住相談に関する調査結果を見ますと、各都道府県及び市町村の移住相談窓口等において受け付けた相談件数は、全国で21万3,000件、27年度に比べて7万1,000件の増加になっております。そして、長野県が前年に続いてトップの1万5,021件ということです。長野県が全国で一番移住希望者の相談件数を受けているということでございます。そのあとは新潟ですとか、北海道、富山、石川と続くわけですが、移住先としてこれほどの人気のある長野県において、我が町も移住希望者を他の市町村と競争するくらいの気持ちで移住していただく応援を行う必要があると思います。

くどういようですが、そのためには情報を欲する移住者の立場に立って、各課横断的にその表現力を高めていただきまして、これまで提案させていただきました方法も取り入れて、ホームページの掲載方法等に更なる工夫をしていただければと思います。

飯綱町の今後において移住者を増やすことが活発な自治活動の源でもあると申し上げまして、

そのための施策に大いに期待をしております。いろいろ申しあげましたけれども、まず担当課長にその辺の所見をお伺いしたいと思います。

○議長（清水満） 徳永企画課長。

〔企画課長 徳永裕二 登壇〕

○企画課長（徳永裕二） いろいろとご指摘をいただきましてありがとうございます。今、お聞きしたことは、現在構築しておりますホームページの更新作業の中で検討し、できるだけ実施してまいりたいと思っているところでございます。

先ほども申しあげましたけれども、情報できる材料が乏しかったりすることから、移住希望者などにとって訴求力のある情報が不十分であるなど、効果的で魅力的な情報発信という面で課題が多かったということは、担当課としても思っているところでございます。そのようなことから先ほど申しあげましたとおり、新しいWebサイトを構築することで、魅力的な情報を提供していけるようにしたいと考えているところでございます。

若干、新しいホームページの考えている内容をご説明をさせていただきたいと思っておりますけれども、行政の内容が主体のもの、これは今までどおりもちろんやっていくわけですが、もう1つは地方創生サイトと言いますか、外部へ飯綱町はこういうことやっているという良いところを発信するような内容、こういったものを載せていきたいと思っております。町外の人向けに見せるようなホームページとしていきたいと思っているところでございます。

その中には議員さんご指摘のアクセス情報や自然、見どころ情報などを載せていきたいと考えています。また、飲食店の情報や宿泊先、観光スポットの情報、こういったものをしっかり載せていきたいと思えます。

また、人ということで、先ほど100人のお話があったけれども、こういった今まで発行してきた皆さんの情報もこのホームページには是非載せていきたいと考えているところでございます。

それからもう1つは、飯綱町で暮らすというカテゴリの中で、移住サポートサービスという形で空き家情報ですとか、仕事の情報はもちろん掲載してまいりたいと思っておりますし、

もう1つは町民の方がライターとなっていただきたいと今考えておまして、記事を町民の方に投稿していただく、飯綱町を紹介するような記事を投稿していただいて、ホームページに載せていくことも考えていきたいと思っております。

そのような中で、先ほどシニア層の移住希望者というお話もございましたけれども、そういう方も多く既に移住されてきておりますので、飯綱町での生活、要は生き方ですとか、暮らし方、移住されてくる方はそういうところに興味があると思いますので、こういうものを既に移住されている方に記事として書いていただく、またライターが聞き取りをして記事にしていく、そんなことしながら情報発信をしていきたいと考えているところでございます。

いずれにしましても、今いろいろとご指摘いただいたところを改善するように取り組んでまいりたいと思っております。よろしく願いいたします。

○議長（清水満） 樋口議員。

○11番（樋口功） 話題を変えまして、移住者を増やす施策として1つ提案をさせていただきます。通告の括弧2番、いわゆる山村留学についてお伺いいたします。

ご承知だと思いますが、山村留学というのは、自然豊かな農村、漁村に1年単位で移り住んで、地域の小中学校に通いながら四季折々の自然の中で様々な自然体験活動、あるいは集落活動を体験する教育活動であります。

51年にスタートしまして、発端は長野の現大町の小中学校でございまして、これまでに全国で2万人を超える子どもたちがこの留学をしているということで、この留学を終えた子どもたちがいつの間にか学校の近くに住んでいたということで、私も下伊那で2校に仕事で行ったことがあるわけですが、非常に生き生きとして学校で学んでいる姿を目にしております。

この制度は、子どもたちの教育の一環として行われている制度でありまして、当然のことですけれども人口対策ではないわけです。しかし、当町においても山村留学の趣旨を理解するとともに飯綱町のファンを増やすという意味合いでこの制度の導入について、いろいろ宿泊の関係などについて問題点はあると思っておりますけれど、検討する1つには値するものではないかと思っておりますが、この点について質問します。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） お答えします。確かに長野県内にいくつか山村留学をやって、いわゆる里親ではないですけど、こちらに子どもたちは寝泊まりをして、1年なり、2年なり学校へ行くわけですから、そういう意味では1つの子どもを増やすという方策にもなっていると思っています。

学校の跡地等々の利用について、私どもも実は、そのようなことも学校の跡地利用としていろいろ当たってきた経過もございます。東京の方で100以上保育園を経営しているところで、「学校経営を実施したい。については長野県が良いところなので、飯綱町か佐久穂町のどちらかにしたい。」ということで、残念ながら佐久平の駅に近い方が良いというようなことにはなってしまった訳ですけども、それは1つの新しい学校教育を進めるというようなことで、少し山村留学とは違う訳ですけど、そういうこともありました。

国で今国会に出すかどうか微妙ですけども、小学校5年生か6年生の間に1週間は必ず日本全国の子どもは田舎に行って生活をして勉強しろという法案を出そうとしております。そういう意味では、飯綱町へは新幹線でも近い、高速も近いというようなことや病院もあっていざという時に子どもたちも安心、豊かな自然があるというようなことで、全国から1週間ずつ何校も来てもらえれば毎日どこかの子どもたちがここへ来て勉強していると、そういうのも1つの町の活性化にも繋がるし、面白いだろうと思っています。

残念ながらと言いますか、これから小学校の跡地利用がどう進んでいくか、一部はそういうようなかたちで、もし利用できるとすればベターだというふうにも思っております。

○議長（清水満） 原教育次長。

〔教育次長 原章胤 登壇〕

○教育次長（原章胤） 先ほどの山村留学の関係でございますが、確かに議員おっしゃったとおり自然豊かな飯綱町に1年単位で移り住むということで、一応転校という手続になろうかと思っています。

それで、確かに移住を増やす手段ということで、まず飯綱町を知ってもらうことが、一番の手段でございまして、そのターゲットを都市部の小中学生に絞る。そうすると保護者もやはり飯綱町を知っていただくこととなりますので、この山村留学、斬新なシステムと言いますか、飯綱町の小中学生の確保という点でも良い制度ではないかと思っています。

先ほど町長も申したとおり、小学校5、6年生が1週間田舎で学習するというのも、経過を見てみたいわけですが、今後、第二小学校、また西小学校の跡地活用を運営していただきます運営会社さんができるかと思いますが、その会社さんにもそういうかたちの山村留学の制度ができないか、検討していただけるように持っていければと思っています。

○議長（清水満） 樋口議員。

○11番（樋口功） 長野県でも10校程度、募集は大体1校20人ぐらいだと思います。すぐに埋まってしまう、そのくらいに人気がある制度だということで、また検討していただければと思います。

最後になりますけれども、これから質問することは、今までのいわゆるホームページ、町の顔、これを活用した移住対策にも通ずると思いますけれども、飯綱町の玄関は、牟礼駅の前であると思っています。一般の家庭でもお客を招く玄関は常にきれいにしています。訪問してくれた人に不快な思いや玄関が汚いと、部屋の中も汚いのではないかとと思われることもあります。そういう意味で駅前ですが、飯綱町を訪れる人にとってもう少し変わった方が良いのではないかと思います。

今は雪でよく分かりませんが、多分、駅前の崖の部分には、春、夏、花でいっぱいになるでしょうか。多分そうだと思うわけですが、現状は、その前に大きな法人の案内板、こればかりが目立つ。駅前景観としてやや違和感を感じるのは私だけでしょうか。

そこで質問します。駅前の景観についてどんな認識を持っており、駅前の整備計画については、何かあるのでしょうか。2016年に栄町付近の整備計画があるというのは知っておりますけれども、駅前の状況について教えていただければ有り難いと思います。

○議長（清水満） 峯村町長。

[町長 峯村勝盛 登壇]

○町長（峯村勝盛） 私も牟礼駅前を降りてすぐ大きな壁と言いますか、そういう受ける雰囲気というのは、地形上やむを得ない点もありますけれど、非常に残念な感じはもちろんしております。

某会社におきましても、最近では協力的にいろいろなことを進めていただいて、明日か明後日に子どもたちのために寄附をしたいということで申出をいただいて予定しておりますけれども、看板はともかく、あそこのロータリーを整備しなければならないということもありまして、今、どういうふうに進めていいかを細部にわたって検討させているところでございますけれども、もう少し土手をカットさせていただいて、周りをもう少し広く場所を取りたいと。

また、この間も目須田議員からありましたけれど、アップル通りみたいな感じというのも素晴らしいのではないかとか、または跨線橋を渡って真ん中で飯縄山の方を見ていただきますと、電車が長野に向かってきて、飯縄山がバックで、あそこが非常に良いアングルの場所だということを、私に一生懸命に言ってくる人もございます。

そんなようなことも含めて、やはり駅前というものを、やはりみんなが集まりやすい魅力のある地域にしていくことが大事だろうと思っています。

○議長（清水満） 樋口議員。

○11番（樋口功） 以上をもちまして私の質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（清水満） 樋口功議員、ご苦労様でした。

暫時休憩に入りたいと思います。再開は10時10分をお願いします。

休憩 午前 9時56分

再開 午前10時10分

◇ 風 間 行 男

○議長（清水満） それでは休憩前に引き続き会議を再開します。

一般質問を続けます。